

令和 6 年 6 月 14 日現在

機関番号：62501

研究種目：挑戦的研究（萌芽）

研究期間：2021～2023

課題番号：21K18466

研究課題名（和文）沖縄/日本/アメリカ、女/男の分断を超えた視点の構築 - 作曲家・金井喜久子を中心に

研究課題名（英文）Constructing Perspectives Beyond the Divisions of Okinawa/Japan/America and Female/Male; Centering on Composer Kikuko Kanai

研究代表者

内田 順子（UCHIDA, Junko）

国立歴史民俗博物館・大学共同利用機関等の部局等・教授

研究者番号：60321543

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,600,000円

研究成果の概要（和文）：沖縄県宮古島出身の金井喜久子（1906～1986）は、女性作曲家として日本で初めて本格的な交響曲を作曲した人物である。1930年代から1980年代までの約50年間、沖縄音楽をモチーフとして、西洋音楽の手法により多くのジャンルの作品を作曲したほか、琉球諸島の民謡やわらべ歌の研究など、幅広く活動した。しかし、喜久子についての先行研究は限定的で、正當に評価されていないという課題がある。本研究により、喜久子の遺族が保管・管理している未整理の楽譜、写真、音楽会のチラシやプログラムなどを目録化・データ化することを通して、喜久子の活動を総合的に再評価するための基盤を構築した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

金井喜久子は、「沖縄（宮古）出身の東京在住者」であり、かつ「女性」である。そのことは、近代日本の西洋音楽の世界で活動する上で、社会的制約となっていたかもしれない。1930年代から1980年代までの約50年間の喜久子の音楽活動に関わる資料群を整理することにより、この資料群が、戦前・戦後の日本における西洋音楽の歴史のみならず沖縄をめぐる社会運動に関わる情報を豊かに含んでおり、沖縄近現代史や社会運動史、女性史、ジェンダー研究などにも有用な資料群であることが明らかになった。

研究成果の概要（英文）：Kikuko Kanai (1906-1986), born in Miyako Island, Okinawa Prefecture, was the first female composer in Japan to compose a full-scale symphony. For approximately fifty years, from the 1930s to the 1980s, she composed works in various genres using Western musical techniques with motifs from Okinawan music. In addition, she conducted extensive research on folk songs and children's songs from the Ryukyu Islands. However, previous research on Kanai has been limited, and her contributions have not been properly recognized. Through this research, we have established a foundation for comprehensively reconstructing and re-evaluating Kanai's activities by cataloging and digitizing her unpublished scores, photographs, concert flyers, and programs, which have been preserved and managed by her family.

研究分野：民俗学

キーワード：女性作曲家 沖縄音楽

## 1. 研究開始当初の背景

沖縄県宮古島出身の金井喜久子(1906-1986)は、1940年、女性作曲家として日本で初めて本格的な交響曲を作曲した人物でありながら、その事績はあまり知られていない。先行研究は、富樫康「現代日本作曲家群像—金井喜久子」(『音楽芸術』10(12)、1952年12月、pp80-82)や、内田るり子「沖縄音楽の中に燃焼しつくした生命—作曲家金井喜久子さんの生涯」(『芸能』28(11)、1986年11月、pp15~17)、辻浩美「日本の女性作曲家(明治から昭和初期まで)—幸田延・松島彝・金井喜久子・吉田隆子・外山道子・渡鏡子」(小林緑編著『女性作曲家列伝』平凡社、1999年)など、限定的であり、喜久子の広範な活動の事績を同時代資料によって実証的に裏付けた研究は未だ行われていない。

ご遺族のもとには、喜久子の音楽および社会活動に関わって残された楽譜・写真・音楽会のチラシやプログラムなどが、未整理の状態で保管されている。これらを概観すると、鎌倉芳太郎のような染織家であり沖縄文化研究者である人物のほか、ひめゆり平和祈念資料館を設立した「ひめゆり同窓会」などの平和運動の関係者、沖縄民謡関係者、日本内外の作曲家・音楽家などとの関わりの中で、喜久子の音楽活動が展開したことを伝える豊かな資料群であることが予測された。1930年代から1980年代までの約50年間に及ぶこれらの資料群を整理することを通して、音楽史的なアプローチのみで捉えきれない喜久子の多面的な活動を適切に評価できるのではないかと考え、本研究を着想するに至った。

## 2. 研究の目的

金井喜久子は、「沖縄(宮古)出身の東京在住者」であり、かつ「女性」であるという、西洋音楽の世界で活動していく上で、社会的に恵まれた環境にあったわけではないが、「沖縄音楽を発展させたい」との強い思いから、1930年代から1980年代までの約50年間、沖縄音楽をモチーフとして、西洋音楽の手法により、交響曲・舞台音楽・映画音楽・歌曲・器楽曲・合唱曲など多様なジャンルで作曲し、自身の作曲法を発展させたほか、琉球諸島の民謡やわらべ歌の研究、沖縄復帰記念式典等の式典音楽の作曲など、幅広く活躍した。しかし、喜久子についての先行研究は非常に少なく、それらの記述は、1978年に喜久子自身が琉球新報に連載した自伝(2006年に琉球新報社から『ニライの歌』として出版)に頼って書かれており、喜久子の広範な人的ネットワークと、それを基盤として展開した音楽活動や社会運動等を、同時代資料によって裏づけ、多角的に分析・評価するには至っていない。そのことが、喜久子の過小評価を招いているのではないかと推察する。本研究では、喜久子のご遺族が保管・管理している未公開の楽譜や写真、音楽会のチラシやプログラムなど、これまで明らかにされていない資料群を目録化・データ化することを通して、喜久子の活動を総合的に再構築・再評価することを試みる。

## 3. 研究の方法

- ① 喜久子のご遺族が管理している楽譜・写真・文書(チラシ・プログラム)等の整理、保存方法の検討と適切な保存措置、目録化、デジタル化
- ② 喜久子が育った音楽環境についての情報収集
- ③ 人的ネットワーク等の分析
- ④ 以上による研究成果のまとめ

## 4. 研究成果

- ① 資料整理及び目録化により、以下の通り、残されている資料の全体像を概ね把握することができた。
  - ・ 演奏会プログラム・チラシ・ポスター、沖縄復帰式典関係書類、『琉球の民謡』(1954年、音楽之友社)等の草稿、新聞スクラップ、書簡など337点
  - ・ 交響曲第1番を録音したレコード等55点
  - ・ オープンリールテープ・カセットテープ102点
  - ・ 写真124点
  - ・ 楽譜の草稿等1728点
- ② 資料整理により、交響曲第1番のスケッチなど、金井喜久子の作曲家としての修練の痕跡がうかがえる資料や、『琉球の民謡』の草稿、テープに録音されたや音源など、琉球・沖縄の音楽を金井喜久子がいかに思考したのかを考察する上で重要な資料が含まれていることが明らかになった。
- ③ 演奏会プログラム・チラシ・ポスター・楽譜の分析により、同じ曲であっても楽曲名が異なるものがあつたほか、反対に、異なる曲であるのに楽曲名が同じである場合があることがわかった。喜久子の音楽活動の記述の際、楽曲名の取り扱いを慎重に行う必要があることが明らかになった。
- ④ 金井喜久子の楽譜資料のうち、大学院生および海外の研究者から調査の要望があり、

ご遺族の了解のもと、2023年8月に合同で調査を実施した。これにより、「Adagio and Allegro for piano (1960)」「空手 (1972)」について、楽曲分析および手稿譜と浄書譜の比較を進めることができた。

- ⑤ 1970年代における金井喜久子の沖縄民謡調査に関連するカセットテープのデジタル化を進めたほか、劣化が認められる紙資料が多数あったため、保存方法の改善をおこなった。
- ⑥ コロナ禍に進めざるを得なかった金井喜久子関連資料の整理では、ご遺族のお宅での調査・整理作業が予定より遅れたほか、音声資料等を含む多様かつ膨大な資料群であることに加え、劣化が進んでいるものが多数あるなど、当初の予測を超えて、資料整理に困難が伴った。資料のこれ以上の劣化を防ぐ措置を講ずることを優先したため、上記①～⑤に関する成果の詳細は、今後、学会発表等によって公開する計画である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------